

## オープン市場短信 (2014年10月)

2014.10.10

### ◆ 9月のCP市場動向

9月のCP（短期社債）月末残高は、2か月連続して前年同月比プラスとなり14兆142億円（前年同月比+6811億円）となった（前月比-1兆5212億円）。一般事法では、例年同様有利子負債圧縮目的で大幅に残高を調整する動きが見られ、1兆4596億円の減少となった。また、その他金融も2390億円の減少であった。一方、金融機関で2155億円、ABC Pが487億円それぞれ増加した。

発行レートの動きについては、足元現先レートが月初から月末近辺まで高止まりしたことが影響し、最上位格付け銘柄を除き一般銘柄では横這い推移となった。最上位格付け銘柄では0.06%台後半から0.085%での出会い。一般銘柄（1格）については0.089%から0.012%台半ばでの出会いであった。

#### 【新発3M物の発行レート】

最上位銘柄（a-1+格）出会いなし。一般事業法人（a-1格）0.090%~0.125%。  
その他金融銘柄（a-1格）0.089%~0.171%。

#### 【業態別残高内訳】

（単位：億円）

業 態	9月末残高	8月末残高	増 減
一般事法	32,765	47,361	-14,596
その他金融	57,280	59,670	-2,390
金融機関	33,970	32,682	1,288
政府系金融	0	150	-150
銀行等	13,029	13,746	-717
証券	20,941	18,786	2,155
ABC P	16,127	15,640	487
計	140,142	155,353	-15,211

（注：買入消却分含む）

## 【格付け別の発行レート】

### 9月のCPLレートレンジ

(単位 %)

格 付	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月
a-1+(一般事法)	0.0660% ~ 0.0850%	—— ~ ——	0.0780% ~ ——
a-1 (一般事法)	0.0890% ~ 0.1130%	0.0920% ~ 0.1150%	0.0900% ~ 0.1250%
a-1+(リース銘柄)	0.0738% ~ 0.0970%	0.0760% ~ 0.0840%	—— ~ ——
a-1 (リース銘柄)	0.0980% ~ 0.1080%	0.0870% ~ 0.1700%	0.0890% ~ 0.1710%
a-2	0.1010% ~ ケ0.35%	0.1000% ~ ケ0.35%	0.1000% ~ ケ0.35%

#### 《CPオペ》

CP買入オペは、3日・17日・25日と3回実行され、各回5500億円にてオファ一された。3日のオペではオファー金額が増額されたものの、応札ニーズが強く按分レートは0.1BP低下するに止まった。17・25日のオペにおいては、応札可能銘柄が少なかったことも影響したためか、按分レートは3か月ぶりに0.07%台に低下、平均落札レートは2か月ぶりに0.08%台に低下した。

【月末オペ残高：2兆1,528億円】

#### 日銀 CP等買入れオペ実績

(単位:億円)

実施日	実行日	オファー金額	応札額	落札額	按分・全取	平均落札	按分比率
9月3日	9月8日	5,500	11,491	5,128	0.092%	0.094%	17.7%
9月17日	9月22日	5,500	9,651	5,431	0.079%	0.087%	47.5%
9月25日	9月30日	5,500	8,795	4,494	0.079%	0.085%	91.7%

#### 《ABC P》

ABC Pの月末残は、前月比487億円増加し1兆61270億円となった。2013年3月以来久しぶりに前年同月比を上回り、約621億円の増加であった。

#### 《短期社債登録状況》

証券保管振替機構によると、9月末時点における発行登録企業数は、セントラル硝子が新規登録を行ったが、日本興亜損害保険が損害保険ジャパンとの合併により登録取り消しを行ったため、494社であった。通算の発行企業数は、変わらず536社であった。

(損害保険ジャパンは、同日付で損害保険ジャパン日本興亜と商号変更。)

#### 《CP現先市場》

現先（S/N）レートは、今月も0.085%～0.09%台後半でのワイドレンジの出合いとなった。

#### ◆ 10月のCP市場動向

10月のCP償還額は約2兆3000億円で、前年同月の償還額（約2兆4300億円）を若干下回っている（除く、相対発行分・金融機関発行CP・ABC P）。

今月の発行動向は、一般事法は中間期末に残高を調整した企業の復活発行が行われるため、前月より増加が見込まれる。

発行レートは、10月に入り運用ニーズも強く若干低下地合いとなっており、今後発行増となっても横這い推移となるのではないかと見られる。一般銘柄の3M物では、0.080%台後半～0.095%近辺の出合い。その他金融・リース銘柄（a-1格銘柄）の3M物は、0.090%台前半～0.170%近辺での出合いをそれぞれ予想する。

2日に、日銀短観「CPの発行環境（発行企業ベース）」の公表があった。それによると、DI（“楽である”－“厳しい”）が前回（6月）調査より、大企業の製造業でプラス3%ポイント、非製造業も同じくプラス3%ポイントと改善した。

#### 《CPオペ》

今月は、9日（実施済）・20日・28日と、計3回の入札が何れもオファー額4000億円にて実施される予定（9月は、計3回：各回5500億円実施）。

9日のオペは、一回当たりのオファー額が大幅に減額となったことと応札可能銘柄が相応にあった事等により、按分レート・平均落札レート共に前回よりも上昇したと思われる。次回以降については、発行増によるディーラーのポジションと応札可能銘柄如何によるが、足元現先レートが落ち着いて推移していることから横這い地合いとなるのではないかと見られる。

月末オペ残高は、2兆円1千億円前後を予想する。

#### 《CP現先市場》

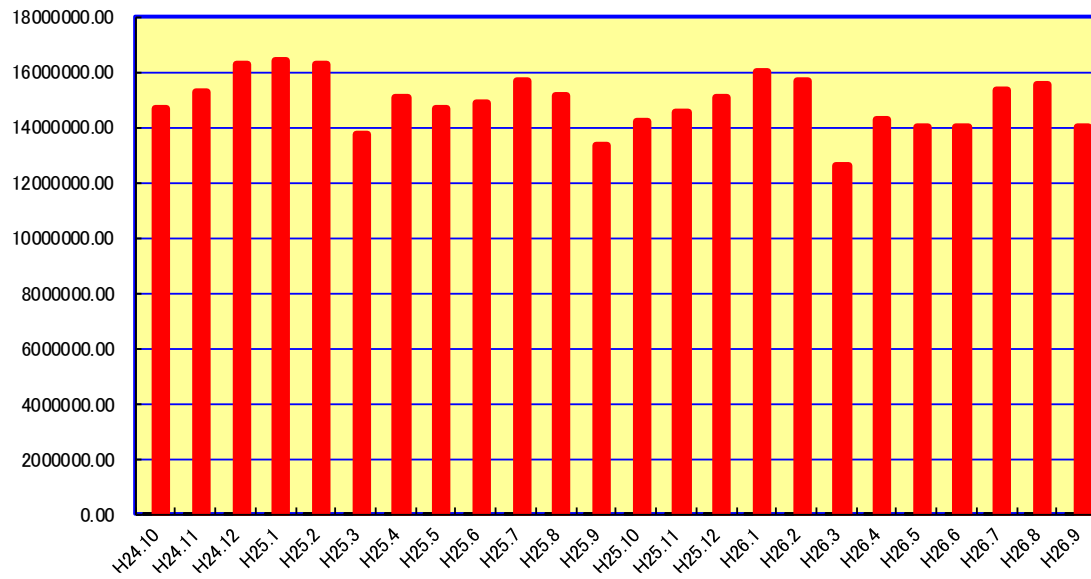
S/N物のレポレートは、0.01%前後～0.07%前後でのワイドレンジを予想。インターバンクレートは、0.05%前後～0.07%近辺での出合いが予想される。CP現先レートは、0.07%台後半～0.09%前後での出合いを予想する。

**参考資料**

**短期社債月末残高**（24年10月～25年9月）

発行登録企業：494社（発行実績あり536社）

（過去2年間の残高を表示）



9月末発行残高ベスト20

9月末発行残高上位20社

(単位:百万円)

	発行企業名	9月末残高	8月末残高
1	三井住友ファイナンス&リース	775,400	806,900
2	三菱UFJリース	716,900	731,400
3	三菱UFJモルガンスタンレー証券	646,500	660,400
4	東京センチュリーリース	608,300	614,200
5	コンチェルト・レシーバブルズ・コーポレーション	516,370	512,260
6	みずほフィナンシャルグループ	500,000	500,000
7	JXホールディングス	456,000	451,000
8	みずほ証券	455,100	416,800
9	SMBC日興証券	438,900	298,000
10	日本証券金融	404,000	232,000
11	三井住友信託銀行	341,300	370,700
12	JA三井リース	332,000	333,000
13	興銀リース	333,000	333,000
14	芙蓉総合リース	327,700	320,700
15	大和証券	280,260	259,360
16	エイペックス・ファンディング	278,790	269,610
17	アルカディア・ファンディング	226,990	200,550
18	フォレスト・コーポレーション	203,504	153,808
19	ホンダファイナンス	188,000	168,000
20	オリックス	186,000	188,800

参考出所 (株)証券保管振替機構

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性について保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。

上田八木短資株式会社

登録金融機関 近畿財務局長(登金)第243号

大阪本社 〒541-0043 大阪府中央区高麗橋2丁目4番2号

東京本社 〒103-0022 東京都中央区日本橋室町1丁目2番3号

加入協会 日本証券業協会